

芸大コレクション展

# 齋藤佳三の軌跡

## Kazo Saito Retrospective

大正・昭和の総合芸術の試み

このたび、東京芸術大学大学美術館では、2006年度の第2回芸大コレクション展「齋藤佳三の軌跡大正・昭和の総合芸術の試み」を開催いたします。

齋藤佳三(1887-1955)は、秋田県矢島町に生まれ、東京音楽学校師範科に入学、音楽だけでなく、文学、思想、舞台芸術など幅広い分野に興味を抱き、やがて東京美術学校図案科へ入学します。卒業制作を早めに提出してドイツへと留学し、20世紀初頭、前衛芸術の新たな中心地となっていたベルリンで表現主義や総合芸術の動向を吸収、帰国後、美術、音楽、工芸、デザイン、舞踊、演劇、文学を舞台に多彩な活動を展開しました。その背後には、生活全体と芸術との統合を目指す一貫した姿勢がありました。当時の日本において、齋藤の活動は非常に先見的なものだったといえるでしょう。本展は、様々な活動から齋藤佳三が近代日本に残した芸術の軌跡を辿ります。

会場：東京芸術大学大学美術館(東京都台東区上野公園 12-8)

会期：2006年11月4日(土)～12月17日(日)

開館時間：10:00～17:00(入館は16:30まで)

休館日：月曜日

料金：一般 300(250)円 大学・高校生 100(50)円(中学生以下は無料)

\* ( )内は20名以上の団体料金(団体観覧者20名につき1名の引率者は無料)

\* 障害手帳をお持ちの方とその介護者各1名は無料

\* 同時開催「The Wonder Box 展」をご覧のお客様は無料でご覧頂けます。

主催：東京芸術大学

助成：財団法人 花王芸術・科学財団

お問合せ：03-5777-8600(ハローダイヤル)

ホームページ：<http://www.geidai.ac.jp/museum/>

交通：JR上野駅公園口、東京メトロ千代田線根津駅より徒歩10分

京成上野駅、東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅より徒歩15分

## 第1章 東京音楽学校から美術学校、ベルリンへ

斎藤佳三は明治38(1905)年、東京音楽学校師範科に入学、その後舞台芸術に触れ東京美術学校図案科に再入学します。在学中には生涯の友となる山田耕筰を始め、小山内薫、岡田三郎助ら音楽と美術の境界を超えた交流を行います。大正元年(1912)に訪れたベルリンでは、山田耕筰と同宿し、浴びるように舞台を見、展覧会に足を運びました。同時代の西欧の表現主義と、ジャンルを超えた総合的な芸術表現への関心の高まりという2つの重要な動向を吸収しました。



《織物壁張図案》1912  
東京美術学校卒業制作です。



ベルリン時代(斎藤佳三、山田耕筰、郡虎彦)1913



斎藤佳三の残した滞欧期のスケッチブック類には、会場で書き取ったと思われる舞台や衣装のスケッチメモが残されています。

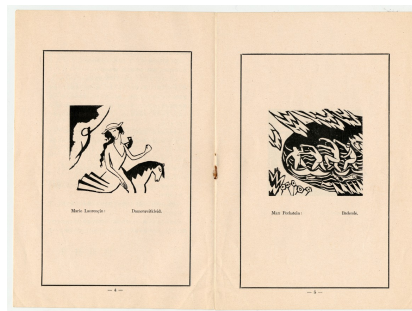
## 第2章 総合芸術の試み

### 2-1 シュトゥルム分社・装飾美術家協会・春光会・主情派

大正3年(1914)、帰国後間もない斎藤佳三と山田耕筰は日比谷美術館で独逸シュトゥルム分社主催の「DER STURM 木版画展覧会」と開催しました。これは日本で初めての実作品による海外の表現主義の紹介となり、同展が恩地幸四郎、長谷川潔らの美術家に与えた影響はよく知られています。また、斎藤が帰国後結成に参加した装飾美術家協会や主情派、春光会での活動は、斎藤が展開した装飾理念の実践の場となっていました。



ヴァシリー・カンディンスキー《白樺》1907  
斎藤がベルリンから持ち帰ったものです。



「DER STURM 木版画展覧会」目録1914

## 2-2 舞台芸術と斎藤佳三

斎藤は山田耕作、小山内薫、石井漠など当時それぞれに新しい日本の音楽、演劇、舞踊を展開していった人物らとの交流により、多くの舞台美術、衣装を手がけています。またみずからもいくつかの戯曲を執筆、作曲しました。総合芸術という視点があったからこそ、舞台美術・衣装と演出との調和が重要であると認識していました。



舞台衣装デザイン「道成寺の幻想」より 清姫・蛇 1922



舞台写真「道成寺の幻想」



舞台衣装「ハムレット」より  
ハムレット 1918



舞台衣装「ハムレット」より  
オフィーリア 1918

## 2-3 2度目の滞欧

大正11年(1922)12月から翌年11月まで、政府及び東京美術学校の嘱託として意匠法、装飾美術教育の調査のため、ドイツへ2度目の渡航を行います。ダルクローズが創設したヘレラウの教育施設を再訪していますがリズムを通じ心身の総合的な調和を図るダルクローズの音楽教育理念は斎藤の総合芸術の理想に大きな影響を与えています。



舞台写真 ヘレラウのジャック=ダルクローズの教育写真 1920代

## 第3章 生活と芸術の総合

### 3-1 図案・装飾と斎藤佳三

「リズム模様」「表現浴衣」などに示されるように、斎藤が行ったデザイン活動は、彼自身が触発された海外の芸術動向を、いかに日本人の生活の中に取り込んでゆくかという試みの表れでありました。雑誌や楽譜の装丁や、服飾、家具、建造物に至るデザインの幅はそうした関心を物語っています。またこれらの活動は、伝統的な意匠から脱出しようとした大正期の図案家達の様々な展開の一端をなすものです。



リズム模様色系刺繍帯 1940頃



リズム模様原画



「ベートーヴェン ピアノ三重奏曲第7番「大公」」





「さるかに合戦」



「富貴高砂漬」



「共益商社」



冊子「芦原節」表紙装丁 1930

芦原温泉べにや旅館絵葉書



表現浴衣「紺能の華」

### 3-2 組織工芸—帝展への出品

昭和2年(1927)、帝展において第4部として美術工芸部門が新設されます。斎藤は組織工芸として「想いを助くる部屋」という、家具、調度を総合的にデザインした部屋そのものを提出しますが1点主義の手工芸に重きを置く審査側により落選となります。翌年、斎藤は再び「食後のお茶の部屋」という、食後にお茶をおいしく飲める部屋をテーマにした作品を出品し、入選しました。その後も数年にわたり、帝展を中心として住居の空間デザインを提案します。生活の場の美的統一という自身の理想を実物によって提示しました。



「食後のお茶の部屋」1928



「想いを助くる部屋」飾窓 1927



「食後のお茶の部屋」肘掛椅子の背刺繍デザイン



「ピアノを主として」1932

### 3.3 服飾について

斎藤が力を入れた仕事に特に女性服の考案があります。これは、生活を改善していくための担い手として女性に着目し、同時代の女性にとっていかなる服装がふさわしいかを探求したものです。斎藤は自ら服飾デザインを実践するとともに、雑誌上や研究所にて活発に新しい服飾デザインを提案していきます。これらの考察は、やがて戦時下に入り国民服への考案ともつながっていくことになります。



「白木屋呉服店新製品 婦人子供新衣装図案」より

飛鳥天平時代に着用された女性服を現代的に見直した「天平式」を提唱しました。

#### 婦人服デザイン「Illustration of Spring and Summer」

着物を中心とした日本の伝統的な衣服を「着物」「帯」「羽織」に分解し、新しい日本の衣服への転換を図りました。洋服を元としたこのデザインでは、左のイブニングドレスは「着物」と「帯」を、右のアフタヌーンドレスは「羽織」と「へこ帯」を変化、適用しています。



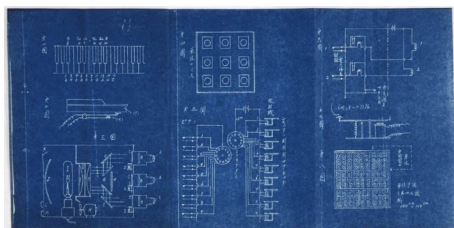
斎藤佳三デザイン婦人服



『生活の美』春の巻 表紙装丁 1947.4

## 第4章 有鍵楽器の採光投射装置

終戦後、晩年の斎藤は「有鍵楽器による採光装置」を考案、特許取得します。これは、音と色彩を同時に発する一種のピアノで、斎藤が初期に触れた総合芸術からいかに深い影響を受けていたかを物語るものです。斎藤が生涯追い求めた芸術総合の夢を象徴するものとして、特許庁へ提出した図面を展示します。



「実用新案登録 有鍵楽器の採光投射装置」装置各部図面

## ♪視聴コーナー♪

斎藤佳三は、在学中に作曲した《ふるさとの》をはじめ、大正、昭和にかけていくつもの作曲を行っています。ここでは、斎藤の自筆楽譜の中から数曲、東京芸術大学音楽学部声楽科の有志による演奏、また、昭和5年に福井県芦原温泉のために作曲した芦原節をご紹介します。

《ふるさとの》 明治41年 作詞：斎藤佳三（ソプラノ：岩下晶子 ピアノ：岩下倫子 2分31秒）

《燕》 明治～大正期 作詞：三木露風（ソプラノ：岩下晶子 メゾ・ソプラノ：中川遊子 ピアノ：辻村倫子 2分41秒）

《鳥は口籠る》 明治～大正期 作詞：斎藤佳三（ソプラノ：岩下晶子 メゾ・ソプラノ：中川遊子 ピアノ：辻村倫子 1分46秒）

《西湖湖畔駄菓子売》 昭和4年 作詞：斎藤佳三（ソプラノ：岩下晶子 ピアノ：辻村倫子 2分28秒）

《樹立》 明治44年 作詞：三木露風（ソプラノ：辻村倫子 ピアノ：岩下晶子 1分01秒）

《シガレット》 昭和期 作詞：阪東雑（斎藤佳三）（ソプラノ：岩下晶子 ピアノ：辻村倫子 3分39秒）

《芦原節》 昭和5年 作詞：斎藤佳三（音源：「ザ・民謡ベストコレクション きわめつきシリーズ 中部・北陸・近畿編」

（発売：日本コロムビア株式会社 1996年）より 3分13秒）

### 斎藤佳三作曲による歌のミニ・コンサート

会期：2006年12月1日（金） 12:00～

15:00～ 各回約30分間 入場無料

会場：本館エントランスホール

展覧会にともない、歌とピアノによるミニ・コンサートを行います。斎藤佳三の作曲した日本歌謡の中から、明治末に作曲された「ふるさとの」（三木露風作詞）、大正初期の「燕」、中国赴任時につくられた「西湖湖畔駄菓子売」など8曲をお楽しみください。演奏に使用するピアノは、明治時代にお雇い外国人教師メーソンが愛用していたものです。

#### 演奏者略歴

辻村倫子 ソプラノ 音楽学部声楽科 2000年卒業

岩下晶子 ソプラノ 大学院独唱専攻 2年次在学中

中川遊子 メゾ・ソプラノ 大学院修士課程 2005年修了

萬谷衣里 ピアノ 大学院音楽研究科ピアノ専攻 2年次在学中

展覧会についての問い合わせ、画像借用の申し込みは下記までお願い致します。

広報担当 竹林佐恵

Tel: 050-5525-2438 Fax: 050-5525-2532 E-mail: takebaya@off.geidai.ac.jp

展覧会担当 島津京

Tel: 050-5525-2450 Fax: 050-5525-2533